



いれい ひ 慰霊碑

教育長 津野庄一郎

湯沢の観音公園は、春のカタクリが見事です。可憐な紫色の小さな花は、訪れる人の心を和ませてくれます。その静かな園の一角に大きな石碑があります。あまり気の付く人はおりませんが、昭和 42 年の羽越水害で亡くなった方々の慰霊の石碑（自然災害伝承碑＝国土地理院）です。

当時小学校 1 年生だった私は、8 月 28 日、それまで経験したこともない水害にみまわれました。あの荒川が堤防を破り、集落をのみ込んだのです。逃げ遅れた私たち家族は最終手段の屋根に避難し、身を寄せ合い一夜を過ごしました。幸運にも助かりましたが、食べるもの、着るものみんな流されてしまいました。流木や土砂で 2 階近くまで埋もれた我が家。その復旧にどれだけ時間を要したかは覚えていません。茶色く暑い夏の日のことです。

令和 4 年 8 月の水害を、私は九州の宮崎空港で知ることになりました。湯沢の松岳寺辺りの被害の様子がテレビで流れています。本当に大変なことになったと気が気ではありません。出張を終えて新潟から胎内経由で実家に戻ると、残骸の処理に追われる父母の姿がありました。母親が点滴を打ちました。過労と脱水によるものでした。

ここ数年の暑さと急な大雨は尋常ではありません。「線状降水帯」という言葉も当たり前になりました。「まさか、そんなことが起きるはずがない」という考え方は改め、あらかじめ準備しておくことが大切です。その際、ホームページにある関川村ハザードマップ（洪水・土砂災害）で、自宅や職場近くの危険個所を確認し、避難する際の経路や連絡方法を家族で話し合っておきましょう。

機会があれば慰霊碑を訪ねてください。亡くなられた方の何よりの供養になるはずです。幼馴染の少年 2 名（7 歳）の名前もそこにあります。